

聖光学院管弦楽団

第1回・第2回演奏会を開催

第3回は9月11日



して練習に励んでいます。指揮者にはエネルギッシュな指導をして下さる高橋隆元先生をお迎えしています。

団は自主運営ですが、名誉顧問の工藤校長はじめ、日本史の川島先生他学校関係者の皆様より多大なご支援を頂いており、ここに改めて感謝の意を表したいと思います。

第3回演奏会は本年9月11日(土)18時開演、神奈川県立音楽堂にてブラームス交響曲第一番、メンデルスゾーンピアノ協奏曲第一番等を演奏します。是非、皆様のご来場をお待ちしています。入場ご希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

2009年9月12日、聖光学院管弦楽団(略称:聖フィル)の第1回演奏会が青葉台フィリアホールにて開催されました。記念すべき第1回は聖光校歌演奏で始まり、工藤校長のご挨拶、そしてハイドン交響曲10番、ベートーヴェン交響曲第7番などを演奏しました。ご来場戴いた多くのお客様に熱く盛大な拍手を戴き、当楽団初のお披露目は成功裏に終えることが出来ました。

続く第2回演奏会も本年4月11日、鶴見公会堂にてベートーヴェン交響曲第3番「英雄」他を演奏し、これも大成功を収めました。聖フィルは、学院創立50周年記念「第九」演奏会(2007年12月22日、みどりホール)で一期一会の特別編成オーケストラに参加したOB、保護者のメンバーが、あの時の感動を再びの思いで、2009年1月に結成したアマチュアオーケストラです。団員は19歳(47期)から61歳(5期)までのOBと、保護者、教職員、及びその家族等からなり、現在50名程の団員が隔週土曜日にラ・ムネホール等をお借り

ご希望の方は下記までお問い合わせ下さい。
尚、現在、ヴァイオリン、コントラバス、オーボエ、トロンボーンなどの団員を募集していますので、大学オーケストラ等で演奏経験のあるOB、保護者等の皆様は、是非一度練習にご参加頂きたく存じます。
聖光学院 川島先生:045(621)2051
長田(おさだ):044(812)6202、E-mail: cats2osada@stg1.dti.com.ne.jp
聖光学院管弦楽団団長・長田邦裕(11期)

夢をいだけ、そして夢を語れ!

15期生 豊田直之さんがラムネホールで講演・6月16日



最近、特に中学生や高校生たちは、自分の夢を語るなくなった。というより、将来何がしたいという強い意思を持たなくなったと言った方が正しいかもしれない。これだけ不確定な世の中では夢もいだけにくいということもあるだろう。

しかし歴史を振り返ってみれば、乱世だからこそ夢を実現できるチャンスとも言えるだろう。では大学には何をしたいのか? 大学に合格することだけが人生のゴールではない。いい大学に合格すれば、後の人生が保証されるなんてこともあるはずはない。実は大学に合格すること自体は、単に夢を実現するための第一歩を踏み出したにすぎないのだ。将来やりたいことがあり、その通過点の単なるひとつが大学ではないのだろうか?

15期卒業。水中撮影を必殺技とする冒険写真家。1959年生まれ。東京水産大学(現・東京海洋大学)水産学部卒、サラリーマン、漁師、ダイビングインストラクター、雑誌ライター兼編集者を経て、写真家・中村征夫氏に師事。1991年に独立し、海の撮影プロダクション・有限会社ティエムオフィスを設立。昨年は、ニューヨークでも写真展を開催し、好評を得た。TV番組出演、ラジオ番組出演、TV番組撮影、TVCM撮影なども多くこなす。

主な著書に「魚眼海中散歩」(講談社)、「海釣り決定版」(世界文化社)、「魚になめられてたまるか」(廣済堂出版)など。
ホームページhttp://toyo-da.web.infoseek.co.jp/

そして、人生には、必ず失敗と挫折はつきものである。けつしてそれを怖れてはいけない。失敗こそが成功を見出すチャンス。そして壁にぶち当たれば、それで諦めるのではなく、必ずどこかに突破口があり、突破できるタイミングがあるはずだ。



写真家として活動する私は、自分が撮影した作品をより多くの方たちに観ていただくことで仕事が成立する。しかし、写真展や雑誌や書籍での掲載では、観せられる数も限られ、いろいろな制約も加わってなかなか思うようにはいかない。そんなとき、写真展会場や出版社に依存せず、もっと気軽に、もっとたくさんの

作品を観ていただくチャンスをもっと作るべきだと考えた。そのひとつが音楽とコラボレーション。ただのコラボレーションは世にいくつもあつた。しかし、映

画と同じように、映像にも音楽にもともに共通のテーマがあつて、それがまさに融合するスタイル、しかもオーケストラチックに構成されたものは存在しない。コンサートに合わせて上映される、またはその逆もあり、上映に合わせて音楽が奏でられる。そんなことが可能かどうかを模索しながら、昨年、作曲家の西上和子氏と出会い、10月31日に第1回目のビジュアルコンサートを都内で開催。今年の2月22日に銀座で第2回目を開催。そして全校生徒1400余名を前に母校での開催が第3回目。これからもこのコンサートは各地で開催する予定。さらに違つたバージョンの製作、ハイビジョンでの上映や、さらに大きなコンサート会場の開催。海外での開催と夢は次から次へと膨らんでいく。

シリーズ 第18回 卒業生のお店紹介



工藤校長も常連という噂

サラリーマンの街、関内の太田町で、居酒屋をしている卒業生のお店があるとのこと。工藤校長も常連という噂を聞きつけ、早速、取材に行ってきた。

関内駅南口から市庁舎沿いに歩き、横浜信用金庫横のベイスターズ通りを直進。太田町郵便局の手前の文房具屋がある細い路地を右に曲がると、すぐ左手に

お店を発見。のれんをくぐると、中はすでに満席状態。ちょうど取材班は予約をしていたので、奥のテーブル席に座れ

たが、予約をしていなければ入れないところだった。お店は、カウンター席が10名程度、奥にひとつテーブルがあるアットホームな感じの雰囲気。2、3人の仲間であつて居る人ももちろんだが、一人でお酌をしている人が意外と多いのに驚いた。きつと、一人で静か



ご主人夫妻

さんがおり、笑顔で挨拶してくれた。なんでも、5年ほど前から、お店をかまえているそう。まずは、かけつけでぎんぎんに冷えた生ビールを飲み干し、おすすめの商品と頼むと、工藤校長がお気に入りというマカロナサラダが登場。

注文が入つてからマカロナを茹でるといふこだわりで、タルタルソース風に茹で卵とからめたマカロナがじつにおいしい。ボリュームも満点で、ビールにも最高によくあつた。お酒も、ビール、ホットピ、地酒の日本酒、焼酎、泡盛など品数豊富で、少し酔いが回ってきたところで、おすすめの芋焼酎という「日南娘(ひなむすめ)」を一升瓶で注文。卒業生つながりでサービス?と意地悪く聞いてみたら、さすがにご主人の顔が引きつっていたが、代わりに一品、セロリ漬けをサービスしてくれた。これも実においしい、くせになる一品。(太っ腹のご主人に感謝、感謝) 料理は和風の家庭的総菜が中心で、メニューも豊富でどれもリーズナブル。す

アットホームさが魅力 居酒屋 たらふくちゃん 店主 30期 芳賀英二郎

が保証されるなんてこともあるはずはない。実は大学に合格すること自体は、単に夢を実現するための第一歩を踏み出したにすぎないのだ。将来やりたいことがあり、その通過点の単なるひとつが大学ではないのだろうか?

写真家として活動する私は、自分が撮影した作品をより多くの方たちに観ていただくことで仕事が成立する。しかし、写真展や雑誌や書籍での掲載では、観せられる数も限られ、いろいろな制約も加わってなかなか思うようにはいかない。そんなとき、写真展会場や出版社に依存せず、もっと気軽に、もっとたくさんの

べては当然食べきれなかつたが、途中からは、今日は取材が目的だったということも忘れて酔いを堪能し、すっかりいい気分になりお店をあとにしたのでした。最後に、ご主人夫妻とお店の写真を撮影することを忘れなかつたのが唯一の救い。関内近辺にいて、軽く飲んで帰ろうかなあというときは、ぜひお立ち寄りいただきたいお店だ。 聖光学院卒業生は、何か特典があるかも... 住所: 横浜市市中区太田町1丁目18番3号 045(663)8210 時間: 午後5時~12時 定休日: 日曜・祭日

